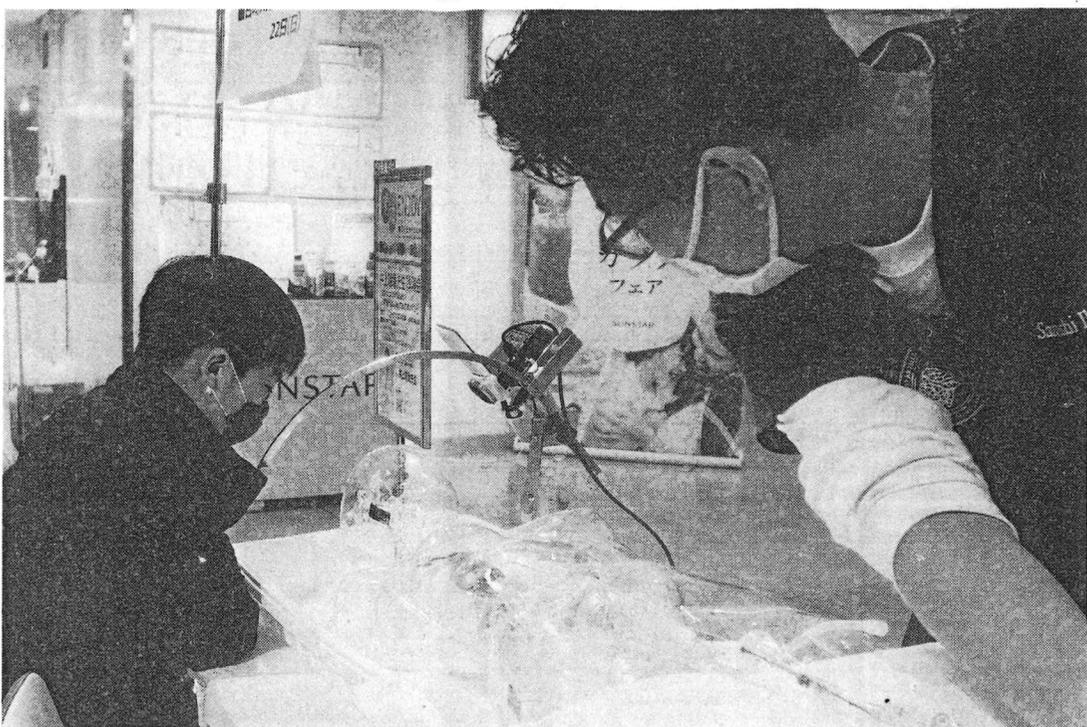


柏高島屋×名戸ヶ谷病院が医商連携

健活ENJOY 医師講演と模擬手術体験

柏高島屋は18日から23日まで、健康にスポットを当てた「健活ENJOY」を本館地下2階催会場ほかで開催した(一部商品は31日までS館各階で販売)。名戸ヶ谷病院脳神経外科ならびに脳卒中センターが協力。専門医や看護師ら専門チームが、会場で手術の模擬体験や健康相談に応じた。また、脳神経外科の井上靖章部長(脳卒中センター長)が、隣接するキネマ旬報シアターで講演。救急車の試乗体験や「サンスター」によるオーラルケアや地元で自然栽培した野菜などを販売する「自然素材yosagena」の商品紹介など、健康に関する様々なサービスが提供された。

本館地下2階催会場は 姿がみられ、脳神経外科 血管内専門医試験に使われる本格的なものもあり、「一般の方が触れる着姿の医師や看護師らのシミュレーションなどが並んだ。



脳神経外科の専門医指導の下、医師が使う医療機器に触れる福嶋友紀君

機会という点で、はじめたかもしれない」と関係者は話した。

井上部長の講演には、100人近くが参加した。井上部長は、脳卒中(脳梗塞や脳出血、くも膜下出血)の脅威を説明。「発症から1分間で190万個の脳細胞が死滅する。発症したら迷わず119番してほしい」と訴えた。名戸ヶ谷病院では現在、脳卒中センターで救急対応を強化。救急の入院から53分で手術を終え、脳梗塞を再開通させた事例を紹介した。ただ、119番通報までに時間を要する事例を示し、「迷う時間がリスクだ」と呼びかけた。脳梗塞の特徴として、まひや痺れなどを挙げた。

「カテーテル手術模擬体験」コーナーに並んだ機器は、人体を模った透明な容器のなかに血管を張り巡らせたものなど。実際の人のデータに基づく精密な人体内模型で、カテーテルを下腹部付近の血管から脳付近の血管に通すまでを体験できた。市内から訪れた福嶋友紀君(6)は、「楽しかった。はじめての体験ができてうれしい」と笑顔。カテーテル手術を終え、「簡単だった。お医者さんになれるかも」と話した。ほかにも血栓回収手術体験もできた。

また脳卒中について、「失った脳細胞は戻らない」と忠告。発症すれば「元には戻らない。自己責任で済まず、家族に迷惑をかける。鬱になる患者も」と後遺症や発症後の苦しさを指摘した。

一方で、「脳卒中は予防できる」と説明。血管の病気であり、メタボリックや喫煙のほか、動脈硬化などの病気をリスクに挙げた。対策として、適度な運動習慣やバランスの摂れた食事、禁煙、歯周病治療などに触れ、脳ドック受診を勧めた。



井上靖章脳神経外科部長がキネマ旬報シアターで講演

市民ニーズ追求 新たな供給方法

柏高島屋では、従来の百貨店としてのあり方に加え、医療に代表される市民ニーズの高い分野との連携を模索し、医商連

携が実現。企画宣伝部の平賀智之部長は、「地域の方々の健康を願う気持ちには、名戸ヶ谷病院と高島屋で同じだからこそ、

連携が実現できた」と話す。引き続き、様々な企業や団体と多様な連携の可能性を広げていく考えだ。また、名戸ヶ谷病院脳神経外科でも、脳梗塞の抑止に向けて継続的な予防の啓発活動に意欲を示している。